

法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-07-31

甲第五十七号

(発行年 / Year)

1910

第九百五十九條 親族會ノ決議ニ對シテハ一個月内ニ會員其他第九百四十九條ニ掲ケタル者ヨリ其不服ヲ裁判所ニ訴フルコトヲ得

(參照)佛四四〇、四四八、四四九、同民訴八八三、伊二六〇、二七二、二七五、二七六、二項葡二二六、西二四〇乃至二四二、二四九、二五五、二七六、四項二七九、三項三一〇、白草四一七、四二〇、四二五、四三一、普千八百七十五年七月五日後見法七八三項

第九百六十條 第六百四十四條ノ規定ハ親族會員ニ之ヲ準用ス

無能力者ノ法定代理人ハ親族會ノ決議ニ依リテ爲シタル法律行為ニ付テモ其責ヲ免ルルコトヲ得ス但裁判所ニ於テ法定代理人ニ過失ナカリシモノト認定シタルトキハ此限ニ在ラス

(參照)西三二二、三二二、三、白草四七〇

秘

甲第五十七號

明治二十九年四月十三日配付

第八章 扶養ノ義務

第九百五十一條 直系ノ血族ハ互ニ扶養ヲ爲ス義務ヲ負

フ

夫婦ノ一方ト他ノ一方ノ直系尊屬ニシテ其家ニ在ル者トノ間亦同シ

前二項ニ定メタル義務ハ扶養ヲ受クヘキ者カ自己ノ資産又ハ勞務ニ依リテ生活スルコト能ハサルトキニノミ存在ス

(參照)戶令八二六、佛二〇五乃至二〇七、澳一三九一、四三一、五四一、六六乃至一六八、關三七六乃至三七八、三、伊一三八乃至一四〇、葡一七二一、七三一、七五一、八〇、ヴォー一〇七乃至一〇九、ラッピヒンデン六八、ツューリッ六五四、六六〇、西一四三、一項二項一五二、三項乃至五項、白草二二一、獨一草一四八〇、一四八一、一四九〇、同二章一四九六一、四九七一、五〇六

第九百五十二條 兄弟姉妹間ニ在リテハ自己ノ過失ニ因

ラスシテ生活スルコト能ハサル者ニ限リ之ヲ扶養スル
コトヲ要ス

(參照)戸令八二七伊一四一、葡一七二一七四一八〇、グワウビ
ンデン六八四一四三三項白草二二一、獨一草一四八〇、一四
八一、一四八九

第九百五十三條 扶養ノ義務ヲ負フ者數人アル場合ニ於

テハ其義務ヲ履行スヘキ者ノ順序左ノ如シ

第一 配偶者

第二 直系卑屬

第三 直系尊屬

第四 戸主

第五 第九百五十一條第二項ニ掲ケタル者

第六 兄弟姉妹

直系ノ卑屬又ハ尊屬ノ間ニ於テハ其親等ノ最も近キ者
ヲ先ニス第九百五十一條第二項ニ掲ケタル配偶者ノ直

系尊屬間亦同シ

(參照)八二八伊一四二、葡一七三一七四四一四四白草二二二、
獨一草一四八四一四八五同二草一五〇、一、一五〇三

第九百五十四條 同順位ノ扶養義務者數人アルトキハ各

其資力ニ應シテ其義務ヲ分擔ス但家ニ在ル者ト家ニ在
ラサル者トノ間ニ於テハ家ニ在ル者先ツ扶養ヲ爲スコ
トヲ要ス

(參照)西一四五一項二項獨一草一四八六同二草一五〇、一
第九百五十五條 扶養ヲ受クル權利ヲ有スル者數人アル

場合ニ於テ扶養義務者ノ資力カ其一同ヲ扶養スルニ足
ラサルトキハ扶養義務者ハ左ノ順序ニ從ヒ扶養ヲ爲ス
コトヲ要ス

第一 直系尊屬

第二 直系卑屬

第三 配偶者

第四 第九百五十一條第二項ニ掲ケタル者

第五 兄弟姉妹

第六 前五號ニ掲ケタル者ニ非サル家族

第九百五十三條 第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

(參照) 西一四五三項 第一一四八三同二章一五〇四

第九百五十六條 同順位ノ扶養權利者數人アルトキハ各其需要ニ應ジテ扶養ヲ受クルコトヲ得

第九百五十四條 但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
第九百五十七條 第八百十八條及ヒ第八百七十九條ノ規定ニ依リ扶養ノ義務ヲ負ヒ又ハ扶養ヲ受クル權利ヲ有スル者ハ若シ離婚又ハ離縁ナカリシトセハ其義務ヲ負ヒ又ハ其權利ヲ有スヘキ順序ニ從フ

(參照) 第一一四八三三項 同二章一五〇四二項

第九百五十八條 扶養義務者ハ扶養權利者ヲ引取リテ之ヲ養ヒ又ハ之ヲ引取ラスシテ生活ノ資料ヲ給付スルコトヲ得但正當ノ事由アルトキハ裁判所ハ扶養權利者ノ

請求ニ依リ其方法ヲ定ムルコトヲ得

(參照) 戸令 佛二一〇二二一、附三八二、佛一四五、葡一八三、ウオー一、二、三、西一四九、白草二二六、第一一四九一、同二章一五〇七

第九百五十九條 扶養ノ程度ハ扶養權利者ノ需要ト扶養義務者ノ身分及ヒ實力ニ依リテ之ヲ定ム

扶養義務者ハ前項ニ定メタル範圍内ニ於テ扶養權利者ノ生活ニ必要ナルモノノ外其教育ノ費用ヲ負擔ス但法令ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

(參照) 八二九二四年文部省令一六號一、佛二〇八、葡三七九、伊一四三、葡一七一、一七八、ウオー一、一、ダラウ、ビュン、デシ六八、二項、西一四、二一四、六、白草二二三、第一一四八、二一四八、八、乃至一四九〇、同二章一四九八、一五〇五、一五〇六

第九百六十條 扶養ノ方法又ハ程度カ判決ニ因リテ定マリタル場合ニ於テ其判決ノ根據ト爲リタル事情ニ變更ヲ生シタルトキハ裁判所ハ當事者ノ請求ニ依リ何時

ニテモ其判決ヲ變更スルコトヲ得

(參照)佛二〇九第三八〇伊一四四番一八一、ヴェー一一一、西一四七白草二二四番一草一四九三

第九百六十一條 扶養ヲ受クル權利ハ之ヲ處分シ又ハ之

ヲ差押フルコトヲ得ス

(參照)財二九二項取一六九三項民訴六一八一號關三八四番一八二四一五、第一草一四九四一四九五同二章一五〇九

第九百六十二條 扶養ノ義務ハ扶養權利者又ハ扶養義務

者ノ死亡ニ因リテ消滅ス但其死亡ノ當時既ニ辨濟期ノ

至リタルモノハ此限ニ在ラス

(參照)伊一四六番一七六西一五〇一五二一號白草二二五二號獨一草一四九六同二章一五一〇

秘

甲第五十八號

明治三十九年四月二十日配付

第六章 後見

第一節 後見ノ開始

第九百五條 後見ハ左ノ場合ニ於テ開始ス

一 未成年者ニ對シ親權ヲ行フ者ナキトキ又ハ母カ財

産ノ管理ヲ辭シタルトキ

二 成年者カ禁治産ノ宣告ヲ受ケタルトキ

(參照)八八一六一二二四一項六年一月二十二日告二八號華士族相續法二章九年二月二十四日內務省指同年三月十四日同省指十年一月二十九日太政官指同年二月二十一日島根縣ニ對スル內務省指同日兵庫縣ニ對スル同省指同月二十二日同省指同年七月九日同省指同年八月七日同省指二、同年十二月十二日同省指十一年三月二十日同省達同年九月十三日同省指同年十月十一日同省指同年十二月十四日同省指二同月二十五日同省指十三年十一月十二日內務省指同月十七日太政官指同日內務省指十四年四月十一日太